

保育士・幼稚園教諭を目指す学生の自宅ピアノ練習内容の追加調査

—録音データ、アンケート、半構造化インタビューから—

An additional survey on home piano practice for college students aiming to become nursery teachers and kindergarten teachers:

From recorded data, questionnaires, and semi-structured interviews

林 麻由美 (東京福祉大学短期大学部)

田中功一 (放送大学)

辻 靖彦 (放送大学)

Mayumi HAYASHI(Tokyo University of Social Welfare Junior college)

Kouichi TANAKA(The Open University of Japan)

Yasuhiko TSUJI(The Open University of Japan)

(キーワード)

ピアノ個人練習、練習内容、和音練習、片手練習、保育者養成

1.はじめに

保育園、幼稚園現場で保育者がピアノを弾くことは、子どもたちの音楽表現活動を援助し、支える上で大切な役割を担っている。たとえピアノの演奏の経験がない学生でも、子ども達の音楽表現を支えられるピアノ演奏技術を身につけなければならない。そのため教員は限られた時間内で効率よく指導することが重要である。併せて、学生は授業外の時間において効率的かつ効果的な個人練習を行うことが重要と考えられる。しかし、実際にピアノ初学者の学生が授業外にどのように個人練習を行っているのか、を定量的に把握することは困難である。そこで本研究では、ピアノ初学者を対象に学生の個人練習を把握するアプリを開発し、初学者の学生 2 名を対象に実験を試みた (田中ほか 2020)。本稿では、収集した演奏 MIDI データからの楽曲の自動認識を目的とした追加調査について報告する。

2.研究の目的

本研究では、ピアノの初学者の個人練習の内容と質の解明を目的とする。そのために本稿では、教員の課題提示に際して、学生が自宅でのように練習しようとしたか、また実際の練習

内容はどのようなものであったか、さらには、どのような考えのもとで練習したかについて調査し、教員のより効果的な指導に繋げていきたいと考える。

3.調査の概要

(1)実験について

対象者 : T 大学教育学部 1 年生 2 名の男性。1 名はピアノの初学者 (以下、A とする)。もう 1 名はピアノ演奏歴 5 年の経験者 (以下、B)。2 人とも幼稚園教諭免許取得を目指している。

実験期間 : 11/17~12/21 の 5 週間とし、正規のピアノ実技授業科目の中で個人練習の状況を調べた。併せて毎週水曜日の授業の開始時に 1 週間の個人練習を振り返るアンケートを行った。期間後、教員が翌週 12/22 の授業で、まとめの発表会を設定した。録音は学生の自宅にて電子ピアノとスマートフォンを USB ケーブルで接続し、実験用に独自開発したアプリを用いて行った。学生が録音を終了すると、アプリにより MIDI 形式の演奏データがサーバーに送信される仕組みとなっている。

(2)毎週の課題曲について

2 名とも毎回 3 曲を課題として提示した。その中で、「小犬のマーチ」を共通の課題とし、毎

週、左手の伴奏形を全音符、二分音符、四分音符、四分音符分散和音、八分音符分散和音とバージョンアップする順序を示した。また、それぞれの曲で片手練習か両手練習の指示もした。

(3) アンケートの内容について

アンケートでは練習の内容、達成度や満足度、そして楽しく練習できたかどうかを4段階尺度で、併せて気付いたことを自由記述で尋ねた。

(4) 実験後のインタビュー

自分の練習のやり方、今回の実験についての振り返りについて一人ずつ30分間の半構造化インタビューを12/22の発表会後に行った。

(5) 教員による対象者の演奏録音の聴取

録音データを授業担当教員である第一著者および他研究者が聴取し、学生の練習状況が確認された。

4. 結果

録音は、サーバーに蓄積されたMIDIファイルから、学生A、Bの練習日時と練習量、音データが確認された。学生Aの実験1週間目の練習時間の合計は20分、2週目は9分程度であった。また、第3回の授業時に課題曲が達成されていなかったAに対し、授業中の20分間を練習時間に当て、その時間を録音し、小犬のマーチを含めた課題曲の練習をするように教員が指示したところ、実際はその時間内で、小犬のマーチの後半の右手だけがようやく弾けるようになったという状況が確認された。これは教員の想定外であった。学生Bは概ね、教員が指示した内容で練習がされていたが、ト長調、ヘ長調の曲で、調号や臨時記号を正確につけて演奏できるまでに時間がかかっていたことが確認された。

またアンケートの結果から、2名ともほとんどの週で「楽しく取り組めた」と回答、「楽しくなかった」と回答した週は、2名とも練習時間が全く取れなかったと、後のインタビューでのコメントがあった。

半構造化インタビューでは、Aは時間があればピアノに向かうことを目標とし、数分でもピアノに向かうこと、授業で学習したことを復習することが練習であると回答した。一方Bは、落ち着いて練習するためのある程度の時間が必要であると答え、当初は弾けるようになることだけを考えていたが、次第に現場で弾くことが目的だと認識するようになったと回答した。さらに2名とも弾ける曲が増えるのは「楽しい」と回答し、達成感についても70%と高いものであった。

5. 考察

学生Aが小犬のマーチ後半部分の右手が弾けるようになるまでに、教員の想定する以上の時間がかかっていた事から、初学者は教員が考えている以上に指を動かすことが困難で、それが練習の障害になっていることがわかった。このことから、教員は学生がスムーズに練習を進められような配慮が必要であり、課題曲を提示する前の予備練習を実践するなどの工夫が考えられる。

学生Bは、ハ長調以外の複数の異なる調性の課題曲の練習において音の間違いが目立ち、苦勞している様子が聞き取れた。これにより1度に複数の異なる調性の課題曲を提示すると、練習の効率が悪いことが考えられる。学生が調性に慣れることをねらい、ハ長調以外の曲は、同じ調性の曲を提示する方が良いと考えた。

今回の個人練習の調査から様々な指導改善の可能性が期待できることがわかった。

6. 今後の課題と展望

録音ミスが目立ったため、今後は確実にデータの収集ができるようにする。また、MIDIデータからの楽曲の自動認識システムからの学生の練習内容の解明を行い、視点を変えた分析を行うことが期待される。

参考文献

田中・林・小倉・辻(2021), 保育者養成課程のピアノの初学者における個人練習方法の顕在化, 音楽教育メディア研究, 7, 13-24